

# 16 大豆栽培暦「えんれいのそら」

大豆の生育

- 栽培ポイント■
- ・土づくりの実践と適正な施肥
  - ・排水対策の徹底
  - ・適正な播種
  - ・雑草防除
  - ・的確な中耕培土
  - ・干ばつ回避のための畦間かん水
  - ・病害虫防除の徹底
  - ・適正な収穫・乾燥



月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
作業名	①排水対策②種子塗抹処理 ③土づくり 石灰質資材の施用 地力増進作物や堆肥の施用	④耕起・基肥施用・播種 ⑤土壌処理除草剤の散布	⑥1回目培土（茎葉除草剤の散布） ⑥2回目培土	⑦畦間かん水	⑧病害虫防除(8月2～3半旬) ⑧病害虫防除（8月4～5半旬）	⑨適期収穫 ⑩乾燥 調製・選別

栽培技術のポイント

①排水対策

- ・前年秋～4月までの額縁および基幹排水溝の設置や心土破碎により、ほ場の乾きをよくする
- ・排水口は深く掘り下げる

②種子塗抹処理

- ・紫斑病やアサギヒメムシ等の病害虫防除のため、薬剤の種子塗抹処理を行う

③土づくり

- ・石灰質資材を施用し、土壌pH6.0～6.5確保、地力増進作物のすき込みや堆肥を施用する

	肥料名	施用量/10a
石灰質資材	苦土石灰	100～200kg
	堆肥	
	牛ふん堆肥	1～2 t
	豚ふん堆肥	0.5～1 t
	発酵けいふん	75～100kg
	籾殻堆肥	1～2 t

④耕起・基肥施用・播種

- ・耕起～播種の一連の作業はほ場が乾いた状態で実施（1日で行う）

基肥	肥料名(配合比)	土壌条件	施用量/10a
BB084	(10-18-24)	砂壤土	30～40kg
		埴壤土	20～30kg

品種	播種時期	栽植本数 <sup>(2)</sup> (本/10a)	播種量 (kg/10a)
えんれい	5月6半旬～	14,000～	5.6～6.4 (大粒)
のそら	6月上旬	16,000	4.2～4.7 (中粒)

注)・大粒の百粒重：35.8gとして計算した場合  
・スリップ率は考慮していない

⑤土壌処理除草剤の散布

- ・播種後、早めに散布する
- ・規定量を均一に散布し、除草剤の効果向上と、薬害の発生防止に努める

⑥的確な中耕培土

- ・培土は根域の拡大、根粒の増加、雑草の抑制、排水の促進、土壌通気性の向上、倒伏防止の効果がある。
- ・2～3葉期と4～5葉期頃に2回培土を行う

茎葉除草剤の散布

- ・培土で抑制しきれない雑草や難防除雑草が生じた場合は雑草の発生状況に応じた茎葉処理除草剤の適期散布する

⑦畦間かん水

- ・開花期頃～9月上旬頃までは、3日以上晴天が続いたら、畦間かん水する
- ・ほ場全体に水が行き届いたら水口を止め速やかに排水する

⑧病害虫防除

- ・2回の基本防除を確実に実施するとともに、追加防除は、払い落とし調査等により防除要否・時期等を決定して随時防除する

⑨適期収穫

- ・収穫前に雑草や青立ち株を取り除き、汚損粒の発生を防止する。
- ・子実水分22%、褐色莢90%以上で刈り取りを開始する

⑩乾燥

- ・機械乾燥する場合は気温プラス5℃以内の送風温度とする
- ・共同乾燥調製施設を利用し、整粒歩合が高く、粒径の揃った均質な大豆に仕上げる